アクト 54 号

2021/8 月発行

NPO 法人　九州国立博物館を愛する会
〒818-0000
太宰府市御笠 5-3-1
電話 Fax 092-408-3062
HP:kvuhaku@aisurukai.net

「能古島」

令和３年度九博を愛する会通常総会を終えて！

理事長　川添廣志

去る６月３０日（水）午後１時より九博を愛する会の事務局にて、九博を愛する会役員参加による総会を開催しました。今回も残念ながら、令和２年度に続き、新型コロナ感染予防の為に、書面議決となりました。みなさんから返信していただいた書面議決票が（161 票)、現在の会員数（313 票）の２分の１が定足数ですので、無事開催ができ、議案のすべてに賛成可決を頂いた事を謹んでご報告させていただきます。

２年前の通常総会は、九州国立博物館に会員の皆様が集い、事業計画を各委員長から熱く語っていただき、みんなで楽しく活動していく事を確認し、そのあと太宰府天満宮の味酒顧問に【新元号令和と古代大宰府】のテーマでご講演いただき、楽しい時間を過ごした事を思い起こします。

本年可決した事業をコロナ禍の限られた環境の中で、一所懸命に活動をして、来年こそはみんなで集まって、楽しく語り合える通常総会にしたいと思います。本年も皆様のご協力をお願いして、通常総会の概略の報告とさせていただきます。

令和２年度　九州国立博物館を愛する会　決算報告書

【収入の部】

No.	科　目	予算(A)	決算(B)	差異(B-A)	摘要
1	会費収入	1,020,000	317,000	-703,000	
	1. 個人会員	0	57,000		
	2. 法人会員	1,020,000	260,000	-760,000	
2	雑収入	431,600	1,525,227	1,093,627	
	1. チケット販売手数料	0		0	
	2. 受入利息	50	27	-23	
	3. 寄付金収入	0		0	
	4. その他	1,000	200	-800	名刺作成
	その他	0	1,525,000	1,525,000	持続化給付金
	5. 繰越金	430,550	0	-430,550	
	合計	1,451,600	1,842,227	390,627	

【支出の部】

No.	科　目	予算(C)	決算(D)	差異(C-D)	摘要
1	事務費	810,600	801,089	9,511	
	1. 図書印刷費	0		0	
	2. 備品費	0		0	
	3. 通信費	96,000	146,096	-50,096	
	4. リース費	129,600	129,600	0	
	5. 諸雑費	35,000	17,458	17,542	トナー
	6. 事務局経費他	550,000	507,935	42,065	
2	会議費	76,000	36,586	39,414	
	1. 会場費	46,000	29,436	16,564	総会
	2. 諸会議費	30,000	7,150	22,850	理事会
3	事業費	465,000	210,221	254,779	
	1. 総務委員会事業	25,000	28,258	-3,258	
	2. 広報委員会事業	120,000	163,239	-43,239	次年度仮払い(¥50，000)込
	3. 交流委員会事業	110,000	0	110,000	
	4. 事業委員会事業	80,000	17,670	62,330	
	5. 拡大委員会事業	30,000	0	30,000	
	6. ブランディング事業	100,000	1,054	98,946	
4	九博デー	100,000	83,520	16,480	
5	予備費	0		0	
	その他	0		0	
6	支出合計	1,451,600	1,131,416	320,184	

収入－支出		1,842,227	－	1,131,416	＝	710,811

令和１年財産目録		繰越金		令和２年度収支		翌年度繰越金
4,405,298	－	0	＋	710,811	＝	5,116,109

～昨年度とこれまでの活動・これからの予定一覧～

令和2年度事業報告及び令和3年度事業報告・計画

日 付	事 業 名	時間	場 所	備 考
令和2年度				
5月7日	ピッカ美化隊、伐根作業～夏の花植え相談	11:00	九州国立博物館	松岡・橋本・髙野
5月28日	ピッカ美化隊、ポーチュラカ花植え作業	10:00	九州国立博物館	
5月23日	５月度理事会	18:30	ぶくら	
6月23日	６月度理事会	18:30	ぶくら	
7月8日	通常総会	13:30	いきいき情報センター	
8月1日	アクト第５１号発行　　500部		ぶくら	
9月26日	１０月度理事会	18:30	天満宮神苑照星館	
10月8日	１０月度三役会＋理事3名	16:00	ぶくら	
10月23日	１０月度理事会	18:30	いきいき情報センター	
11月8日	ピッカ美化隊　ビオラ花植え作業	9:30	九州国立博物館	20名
11月8日	アクト企画取材訪問	14:00	故有吉市長宅	4名
11月20日	１１月度理事会	18:30	いきいき情報センター	
12月18日	１２月度理事会	18:30	いきいき情報センター	保険適用と活動着衣
1月17日	アクト第52号発行　　８００部			
1月18日	１月度理事会	18:30	いきいき情報センター	
2月3日	例会/特別展解説会～奈良中宮寺の国宝～	13:45	プラムカルコア	小泉学芸部長
2月16日	特別観覧会　～奈良中宮寺の国宝～	17:15	九州国立博物館	
2月18日	2月度理事会	18:30	いきいき情報センター	
3月9日	第２５回九博デー「太宰府天満宮における天神縁起の諸相」	13:30	太宰府天満宮　余香殿	味酒安則顧問
3月18日	総務委員会　子ども教育WingWingを九博に案内	13:30	九州国立博物館	元JC理事長依頼
3月19日	3月度理事会	18:30	いきいき情報センター	
令和3年度				
4月15日	4月度理事会	18:30	あおぞら保険事務所	
4月26日	ピッカ美化隊　花壇・広場水遣り	10:00	九州国立博物館	
4月29日	WingWing「キッズプレス」九博バックヤード取材同行	10:00	九州国立博物館	広報委員会
5月6日	ピッカ美化隊打ち合わせ　広報課・交流課	11:00	九州国立博物館	活動確認事項
5月11日	特別展「よみがえる正倉院宝物」解説会	13:00	プラムカルコア	川畑憲子研究員
5月14日	５月度理事会	18:30	あおぞら保険事務所	
5月18日	九博特別観覧会	17:15	九博3F	よみがえる正倉院宝物
5月19日	会計監査	11:00	愛する会事務局	木村監査

5月19日	アクト53号発行			500部
5月23日	ピッカ美化隊　ビオラ伐根作業2h	9:30	九州国立博物館	3名
6月8日	ピッカ美化隊　土起こし・肥料鋤込み3h	9:30	九州国立博物館	3名
6月10日	総務　総会資料発送		事務局	
6月14日	ピッカ美化隊　交流課打ち合わせ		九州国立博物館	
6月20日	ピッカ美化隊　九博職員合同ポーチュラカ植え付け	9:30	九州国立博物館	20名
6月21日	6月度理事会	18:30	あおぞら保険事務所	
7月20日	7月度理事会	18:30	二日市東コミセン	7名
7月21日	ピッカ美化隊ポーチュラカ水遣り作業2h	9:30	九州国立博物館	3名
7月25日	ピッカ美化隊ポーチュラカ水遣り作業2h	9:00	九州国立博物館	3名
7月30日	ピッカ美化隊ポーチュラカ水遣り作業2h	9：00	九州国立博物館	5名
7月31日	特集展示（第1回きゅーはく☆とっておき講座）	13:30	ミュージアムホール	齋部麻矢研究員
8月3日	特別観覧例会（皇室の名宝）	16:00	ミュージアムホール	原田あゆみ企画課長
	これからの予定			
8月初旬	アクト54号発行		ぶくら	500部
8月	軽微剪定覚書協定締結（保険加入・ビブス着用）		九州国立博物館	花壇・広場周辺
8月29日	特集展示（第2回きゅーはく☆とっておき講座）	1330	ミュージアムホール	オリエント美学芸員
9月19日	特集展示（第3回きゅーはく☆とっておき講座）	13:30	ミュージアムホール	楠井隆志展示課長
9月25日	事業委員会　古都の光参加			**中止**
10～11初旬	ピッカ美化隊　伐根、肥料鋤込み作業	9:30	九州国立博物館	2日間に分けて
10月31日	つくし郷土かるた大会		とびうめアリーナ	**中止**
11月初旬	アクト55号発行			500部
11月中旬	ピッカ美化隊　ビオラ花植え付け	9:30	九州国立博物館	
11月	交流委員会「ふるさとセミナー」		未定	

《今年度既済事業報告》

◎　総務委員会　よみがえる正倉院宝物展解説会・観覧会

＜螺鈿の解説をする川畑憲子研究員＞

5 月 11 日火曜日、太宰府市「プラムカルコア」にて九博企画課川畑憲子氏による展示解説会が行われました。正倉院御物がもつ遥かな古に想像をかきたてる魅力、作り出された美、技術。今回は、その復元された物を展示し、製作者の声も聞いてもらおうという贅沢な特別展でした。“ものづくりニッポン”その精神と技術は連綿として受け継がれていきます。一週間後の 5 月 18 日、ソーシャルディスタンスを厳守しながらの観覧会も盛況のうちに無事開催することができました。事前学習のおかげで皆様も目が釘付けだったようです。

◎ピッカ美化隊報告

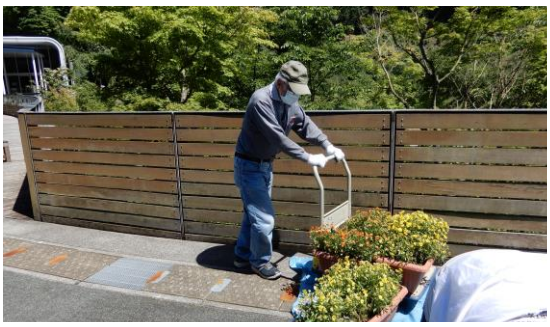
＊5 月 23 日（日）《ビオラ伐根》

初冬から春にかけて九博南階段とイベント広場をささやかな彩りをそえていたビオラが役目を終えました。ピッカ美化の花植え隊は、次の花を準備する「伐根作業」を行いました。

今村さん、越智さん、田中総務委員長、ベトナムから丸源産業実習に来ているフンさんとクオンさん、橋本隊長、松岡事業委員長、大変お疲れさまでした。

枯れ始めたビオラ、今日までありがとうね

クオンさんとフンさん、丁寧な作業です



＊6 月 8 日（火）　花壇とフラワーポットの《土起こし・肥料鋤込み》

例年 6 月中旬に夏の花を植え付けます。その日から逆算して 2 週間ほど前に伐根したあとの花壇やフラワーポットの固まった土を掘り起こし、土壌改良剤と腐葉土を鋤込みます。
日照も強くなってきた初夏、永久凍土のように固まった下部の土壌を掘り起こして酸素や養分の通りを良くし、成長を促してやらねば根が伸張しないのです。結構な労働なんですが、成長を思う気持ちは花の苗もうちの子たちも同じようなものです。

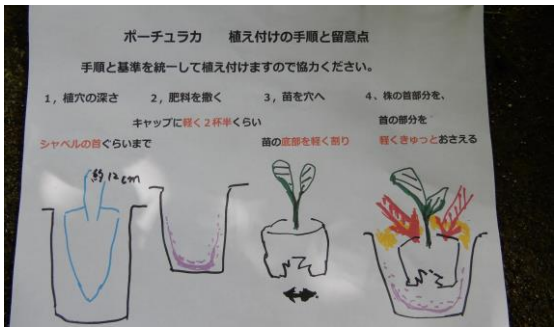
＊6 月 20 日（日）　夏の花ポーチュラカの《苗の植え付け》

数日前に交流課に相談して、苗の手配をお願いしていました。前日夕刻過ぎに日陰の場所に保管して本日作業する皆さんが集合する前に、準備をすすめていきます。そして・・

早く、早くと呟いているような花の苗

木陰に入って、理事長挨拶。コロナ対策も大事ばってん、熱中症にも注意しちゃり。帰りに用意しちゃあ梅が枝餅が嬉しいやら熱いやら・・気持ちの熱さは負けとらんばってん。そーいや、家に帰って冷蔵庫で冷やして食ってとか言いよったねぇ

なーもなか。ばってん、土起こしと腐葉土やらの鋤込みはばっちりバイ。これから此処に花の苗ば植え付けていくったい。ひとつひとつ丁寧に。一か月もしたらくさ、九博小町のごたあ花ば咲かすったい。階段ばひいひい言うて通りすぎる人達に、ちら見でも心が安らいでもらえたら嬉しかったい



橋本隊長お手製の注意書き。植え付けの手順と留意点ば紙に書いて、みんなにしっかり理解してもらわな、あとのまつりになるったい。

今日から 11 月迄って考えたらくさ、肥料のマグアンプば効率よく根っこに密着させる埋め込みが肝心バイ。お姐さんたち、よろしくお願いしまーす。

伐根作業にも来てもろうたベトナム実習生のフンさんとクオンさん

次の水遣りがいつになるかしれないので、植え終わった後はたっぷりと・・理解しているけど結構手間がかかるのよと呟く鳥飼さん

館内の掲示板を見て手伝いに来られました、左手から山田・小泉両副館長、交流課上野主任、福田さん、広報課の毛利さんです。ありがたや、ありがたや～、われわれも元気もらいましたっ

今日はとっても多彩な顔触れで楽しかったな～。引っ越しした早良区から来られた宇都宮さん、ほぼ 90 才だがピンピンの荒井さん、日焼けを乗り越えて参加した女性陣、トンボのようなメガネが怪しい下さん、パイレーツ・オブ・カリビアン風の小泉さん、現場監督っぽい山田さん、丸源産業の実習生フンさんとクオンさん、いつも変わらない川添さん。いま九博の追い風が嬉しい。

《特別展紹介》

「皇室の名宝　―皇室と九州をむすぶ美―」

原田あゆみ

愛する会の皆さま、先日の特別観覧、お越しいただきありがとうございました。コロナ禍の中、運営も厳しい状況ですが、特別展「皇室の名宝　―皇室と九州をむすぶ美―」は多くの皆さまからご好評をいただいております。すでにご覧になった方も多いと思いますが、ここでは展覧会の見どころについてご紹介します。

動植綵絵梅花群鶴図
伊藤若冲　宮内庁三の丸尚蔵館

見どころ その１　皇室の貴重なコレクションを、九州の地でまとめて公開する初めての機会!

このたびの展覧会は、展示作品の全てが皇室コレクションです。これまでも九博では開館記念特別展「美の国　日本」をはじめ、節目の展覧会に宮内庁三の丸尚蔵館から作品をお借りすることはありましたが、今回は皇室コレクションが九州の地でまとまって公開される初めての機会です。飛鳥時代から現代まで、各時代を代表する書画、美術工芸品をご覧いただきます。小野道風をはじめとする能書の名筆、鎌倉時代の合戦絵巻や仏画、王朝貴族を描いたやまと絵の傑作、応挙や若冲の花鳥画、近代を代表する帝室技芸員の優れた技の成果など、日本美術の名品の数々は必見です。

見どころ その２　九州各地から皇室に献上された品々が、初めて里帰りします！

近代における皇室のコレクションは、御即位や御成婚をはじめとする御慶事や、行幸啓に際して各地から「献上された品々」、帝室あるいは宮内省が制作を依頼した「御下命品」、博覧会や展覧会での「御買上げ品」などからなります。これらのうち、九州ゆかりの作品を展示します。通常、献上された作品が制作者や献上した地元に戻ることはないのですが、今回は九州各県と沖縄に関係する作品が里帰りする貴重な機会です。

鳳凰図花瓶　　二代
海野美盛　海野　清
宮内庁三の丸尚蔵館

見どころ その３　御物《聖徳太子二王子像》、御物《法華義疏》が特別公開されます！

推古天皇の摂政として国政にあたり、仏教の興隆に尽力した聖徳太子の存在は、日本文化の形成に大きな役割をはたしました。《聖徳太子二王子像》と《法華義疏》は、太子のお姿と真筆として大切に伝えられた、わが国最古の肖像と墨書です。聖徳太子の 1400 年遠忌にあたる本年、天皇家の御所蔵品であるこれらの御物を九博で特別に公開いただきます。

さて、こうしたコレクションはすべてが制作当初から皇室にあったわけではなく、その多くは明治以降にさまざまな経緯で皇室の御所蔵となったものです。たとえば、鷹司家から皇室に献上された《春日権現験記絵》、島津家からの大正天皇の御即位をお祝いして献上された《銀製鳳凰図花瓶》、また初代総理大臣となった伊藤博文から明治天皇に献上された山本

芳翠の油彩や、横山大観自らが皇室に献上するために描いた屏風など、朝野の貴顕から皇室に献上された品々のほか、皇室への献納に対して下賜金を与え、制作を依頼し御買い上げする場合もありました。例えば、伊藤若冲の《動植綵絵》は、京都・相国寺から明治期に皇室に献納されたものですが、廃仏毀釈などの混乱による困難な時代、皇室からの下賜金が寺院存続の助けになったといいます。帝室技芸員制度の創設は、江戸時代に高度に発展した美術工芸品の制作が、日本の近代化の中で失われることを危惧し、皇室がすぐれた技量と見識をもつ美術家、工芸家の制作活動を奨励することから始まりました。

平成の時代に、皇室の美術品を後世へ継承し、また多くの人々に公開する機会を増やしたいとの上皇陛下のお気持ちを受けて開館した三の丸尚蔵館では、保存継承活動の一つとして修理事業を進め、《動植綵絵》《春日権現験記絵》といった名品を安定した状態で公開、継承する努力を続けています。今日私たちが目にすることができるこうした名品の数々は、長い歴史の中で様々な縁と人々の努力によって守り伝えられてきました。そのことに思いを寄せ、皇室がはたしてきた役割をみつめていただければ幸いです。

＝《九博動画のご紹介》＝

文化財のヒ・ミ・ツ　「花鳥堆朱盆」

文化財のヒ・ミ・ツ　「中空土偶」

《特集展示案内１》「古代ガラスの世界」

古代オリエントで育まれたガラスの世界

深い紺色に浮かぶ、鮮やかな白と黄色のドレープ。この小さな壺が「ガラス」だと見抜ける人は、どのくらいいるでしょう？

私たちの身の回りには数多くのガラス製品がありますが、そのほとんどが透明性を活かしたものです。しかし今から約 4000 年前、古代オリエント世界で誕生したガラス製品は、透明ではなかったのです。当時のガラスは、特権階級の間で好まれた美しい色や文様の「貴石」の、代替材料として使用されました。このため石に似た色や文様を有することが重要で、透明性はむしろ不要だったのです。図1・2などの初期に作られたガラス容器は、故意に透明性を消す成分が加えられており、まるで陶器か石の様です。しかし滑らかで優美な文様と艶は、熱を加えると柔らかくなり、冷えると固まるというガラスの特性があってこそなし得たものでした。製品の製作方法は現代の方法とは全く異なり、当時は大変難しい技術であったことから小型品が多く作られました。アイライナーなどの化粧品や希少な液体の容器として使用されていたようです。

図1 把手付瓶 エジプト 紀元前 1550-1295 年頃

図2 アメンヘテプ３世銘入蓋付容器 エジプト 紀元前 1390-1352 年頃

そして紀元前 1 世紀中頃、ガラス製作最大の発明とも言われる「吹きガラス技法」が生み出されました。この発明によってガラス容器は爆発的に進化し、普及していきます。少量のガラスのタネから様々な形や大きさの製品を作ることができることから、安価な日用品が大量に生産されるようになったのです。またこの頃からガラスの透明化も進み、用途の幅も広がったことで、ガラスは人々の身近な素材となりました。もちろん図 3 のような高価な製品も引き続き生産され、複雑で華麗な把手を付けたり、表面を突起で装飾したりと、高度な技法でガラスの透明性を活かした製品も数多く作られます。これらは当時のローマ帝国の繁栄と拡大とともに貴重な交易品として西アジアの各地に広がり、ガラス製品の製作そのものの広がりも促進しました。各地のガラス職人は消費者のニーズに応えるために工夫を凝らし、製作技術も進化していきました。現代にも繋がるガラス製作技術は、この頃にほぼ完成したといっても過言ではありません。

図3 型吹リブ装飾 吊手付瓶 東地中海周辺地域 4世紀

このように古代オリエントで誕生し、西アジアで発展したガラスは、シルクロードをはるばる旅して古墳時代の日本にも届けられました。その数は多くはありませんが、正倉院の白瑠璃碗や沖ノ島出土の切子ガラスなどにその一部が伝わっています。本展では、それらの製品に至るまでのガラス製品の変遷を、アジア有数のコレクションを誇る岡山市立オリエント美術館の作品からご紹介します。これだけ多くの優品が九州で展示されることはめったにありません。今回は特に、ガラス製品そのものの歴史だけでなく、それらを生んだ職人たちの製作技術にも注目し、イラストで解説しています。当時の人々が好んだ鮮やかな色彩と造形美、そしてそれらを造りだした職人たちの巧みな技を併せてご覧いただき、古代オリエントの世界に思いを馳せていただければと思います。（九州国立博物館 展示課主任研究員 齋部麻矢）

《特集展示案内２》―范道生

「没後 350 年記念　明国からやって来た奇才仏師　范道生」

范道生（1635～1670）は、万治 3 年（1660）に長崎に渡来した福建省泉州府安平出身の仏師です。安平は、台湾海峡に臨み、平戸出身の鄭成功も軍事拠点の一つとしていた貿易港でしたが、当時清軍の攻撃と侵入によって徹底的に破壊されました。范道生も、その混乱を避けて日本に渡航したのでしょう。

渡来後の范道生は、唐寺の福済寺に仮住まいし、福済寺の仏像や道教神像を造っていました。当時はまだ唐人屋敷も設置されておらず、貿易船で渡航してきた中国人は比較的自由に長崎市中に住むことができたのです。寛文 2 年（1662）日本黄檗宗の開祖・隠元禅師から京都宇治に建立中の萬福寺の仏像製作を命じられました。この時は長崎で製作し、完成すると宇治へ運ばれたようです。当時日本では大変珍しい乾漆造りの仏像も製作しています。同 3 年 3 月、興福寺が焼失すると、9 月までの約半年間、興福寺の復興造像にも従事しました。いま媽祖堂に安置される神像はすべて范道生が製作したものです。

萬福寺の造像が本格化すると、范道生は寛文 3 年 9 月萬福寺に招かれ、約 1 年間滞在しました。この間、少なくとも 20 体の仏像を完成させています。そのときの代表作がインパクトのある像容で有名な十八羅漢像です。彫刻は范道生がおこない、装飾の仕上げは京都仏師が担当した、日中仏師合作の群像です。萬福寺では多くの僧と親交を深め、羅漢図などの絵画作品も残しています。

萬福寺の初期整備が一段落すると、広南国（いまのベトナム中部）に向かうために日本を一旦離れました。寛文 10 年、萬福寺の造像を再開するため再び渡来しますが、新来唐人扱いを受けて滞留許可が下りず、同じ船で帰国するよう命ぜられていました。そして同年 11 月 2 日、36 歳で病没しました。当時の東アジア情勢と幕府による海外貿易統制策に翻弄された、あまりにも短い人生でした。日本での活動期間は 6 年弱でしたが、萬福寺に遺した仏像を通して日本黄檗宗の開立を広く世に示すことに貢献しました。また、同時代の一部の京都仏師にも影響を与え、范道生作品の形式と作風にならう新しい様式が生み出されました。

十八羅漢坐像のうち半托迦尊者　范道生作
寛文 4 年(1664)　　京都・萬福寺

本展は、范道生の没後 350 年を記念して開催する小さな特集展示ですが、黄檗宗大本山萬福寺と興福寺の代表的な仏像や道教神像が展示されます。主な絵画作品がそろうのも見どころです。自筆の書も初公開いたします。この機会に、范道生作品の魅力を存分にお楽しみください。

（展示課長　楠井隆志）

リレー随想

山田信吾副館長

４月に九州国立博物館副館長兼福岡県立アジア文化交流センター所長に就任しました。

どうかよろしくお願いいたします。

１００年の夢、九博が開館して１５年が経過しました。「九州国立博物館を愛する会」の皆様には、開館以来、親身になって九博を応援していただいておりますことに、心から敬意を表し、お礼を申し上げます。

私は、嘉穂郡穂波町（現在の飯塚市）で生まれ、ずっと福岡県で生活してきました。福岡県民は、「日本一地元愛が強い」と言われますが、私も典型的な「福岡県大好き人間」です。

子どものころは、時代劇全盛の時代。毎日、日が暮れるまでブラウン管のヒーローになりきり、手製の刀や手裏剣でチャンバラや忍者ごっこをしていました。そうした経験から、今でも歴史小説をよく読みます。

博物館勤務は、初めてですが、利用していただくお客様の目線で、歴史小説よりも格段に楽しく、わくわくする博物館を目指したいと考えています。

「九州国立博物館を愛する会」の皆様には、これからも「私たちの大事な博物館」として九博を育てていただき、地元愛が強い福岡県民の自慢の一つになれば、これに勝る喜びはありません。

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの方々が不自由な生活や経済的不安を余儀なくされています。コロナ禍の中、九博が少しでも元気や癒しの時間を提供できればと考えています。

目に沁みる青葉若葉、鳥や蛙の鳴く声、色鮮やかな花々、乱舞する蝶。四季折々の自然に囲まれた九博で、苦難の時代を乗り越え、誇るべき文化を築いてきた祖先の想いを感じていただければ幸いです。

職員一同、感染防止対策を万全にして、ご来館をお待ちしています。

編集後記：発行が随分遅れてしまいました。すべてのことがコロナ前とは違っていて、現在生まれ変わろうとしている脱皮中の身です。壁になっている一番の課題は、何といっても協議する状況が作れないことでしょうか。ブルドーザーでざくざく整地できる訳ではないので、それぞれの時間割を持ち寄らないといけないのです。どこかの国とちがって、議会制民主主義を標ぼうしているわけで、良いこともあればもどかしい反面もあります。なんて愚痴っているとオリンピックも終わり、残ったのはコロナだけ・・にならぬよう、ほんと脱皮していかねばならんのです。そろそろつくづく・・ぼうしのおでまし。